

■芽室町農業振興計画策定検討会議 第2回環境保全部会

日時：令和元年12月20日（金）13:30～15:00

場所：役場庁舎地下第2・3会議室

【出席者】

児玉部会長、森本副部会長、中嶋部会員、林原部会員、尾山部会員、鈴木部会員

【欠席者】

中島部会員、久保部会員

【事務局】

佐々木補佐、藤村係長（農産係）、河内主査（畜産係）、本保主任（土地改良係）、河井主事（同）

【書記】

平手主任（農産係）

■1 開会

藤村係長：

欠席者等について報告。

■2 部会長挨拶

児玉部会長：

慎重審議し、3回目の会議に繋げていきたい。

■3 議題

(1) 本町農業の現状と課題について

(2) 施策の方向性について

藤村係長

第1回会議のあと、農協、普及センター、町などから意見を集め、事務局でまとめた。「検討項目1 農村環境の保全」では課題を2つ挙げている。「検討項目2 有害鳥獣による農作物被害の防止」でも課題を2つ、「検討項目3 喫緊の課題は無いが計画に記載すべき事項」としては、5点記載している。

（資料1に基づき、記載内容について説明。）

有害鳥獣対策については、現在、国で進めようとしているAI、ICTの導入による捕獲（駆除）を、本町においても、検討していくことが必要と思われる。

児玉部会長

まず、耕地防風林の今後の方向性について、質問・意見あれば伺いたい。

尾山部会員

伐採をする人は増えているが、再植をしていないのが現状である。

児玉部会長

どっちを取るか（防風効果 or 作業の効率化）。河北地区の耕地防風林は、昔（30年前）を100として比べたら今は20に減少しており、春風や台風による被害は増えている。機械の大型化も著しい。

未来ミーティングなどでも耕地防風林の重要性について話しているが、機械の大型化を理由に、伐採が優先されている。

農業被害だけでなく、道道、高速道路、通学路にも影響がある。耕地防風林が無いところでは、雪の吹き溜まりなどが発生し危険も伴うので、耕地防風林を残し（増やし）、昔の姿を戻すのが理想ではある。

林原部会員

私も伐採した農家のうちの一軒であるが、伐採した理由は、折れた枝木を拾う労力や日陰部分の生育不良などである。強風に強い（枝木が折れにくい）樹種を知りたい。

鈴木部会員

耕地防風林は、重要と捉えている。植えて日の浅い防風林もあるが、これからも増やしていきたいと思っている。伐採はそれぞれ考え方があってと思うが、伐採跡地周辺では、横殴りの風、暴風雪、吹き溜まりが増えている。町民の環境（交通）にも影響するので、農業者の主観だけではなく、一般町民のことも考えるべきである。

若手の農業者の中には、耕地防風林の助成制度を知らない人もいるので、周知徹底が（防風林造成に向けた）草の根活動に繋がる。

児玉部会長

多面的機能支払制度により、多くの農家は環境保全に取り組んでいる。町でも耕地防風林の助成事業に取り組んでいるので、助成制度を知らないと言うのであれば、助成制度をしっかりと周知し、経費負担が軽減されるのであれば、植栽（再植）する農家も出てくると思う。

基礎資料中、耕地防風林の保育造成事業の実績（人数）が、H30は落ちているが理由は把握しているのか。

佐々木補佐

事業を開始して3年目であり、希望者が少なくなってきたのかもしれないが、周知は必要と考えている。

児玉部会長

環境保全組合のマンパワーについてはどうか。

祥栄地区は、設立して14～15年目となる。実際、環境保全の作業に影響は出ているか。

中嶋部会員

伏美地区は、スタートが遅かった。

森本副部長

私の地区（上美生）は、3年前くらいに解散してしまった。設立に対しては、ほとんどの農家が反対した。自分が役員をやるからと言って渋々始まった。

解散の理由は、草刈り・枝払い作業など、自分の場所（モノ）は自分でやるべきという考えであった。

児玉部会長

事務（申請書類等の作成）の受け手がいないという現状もある。

森本副部長

事務の研修会が開催されるが、なかなか行けない。

児玉部会長

祥栄環境保全組合は、河北3地区の合同の組織となっている。14～15年前に始めたときは6割が反対派であり、特に50歳以上の人には全員に反対された。

組合への加入個数は、設立当初の56戸から40戸台に減少している。作っている品目も違うし、畜産農家、野菜農家もいるし、収穫時期も違う。それぞれに繁忙期があり、なかなかまとまらないが、個人に任せるとまずやらない。

若い世代で組合活動に精力的に参加する人はほとんどいない。経営面積も増え、野菜類など品目も多様化しており、組合活動まで手が回らない。釧路では全部業者に委託して実施している。

非農家の協力も考えられるが、実態は離農した高齢者やサラリーマン世帯なので、組合活動への参加は現実的でない。

一方、地域の老人会、柏樹会の方はやる気があり、時間があるからできると言ってくれる。でも、高齢者なので危ない仕事はお願いできない。平坦地などの環境の良い場所での仕事しかお願いできない。

町全体で考えると、老人会等に依頼できる場所、依頼できない場所があるので、老人会一本でお願いはできない。

児玉部会長

検討1では色々意見ができたと思うが、「耕地防風林が必要」なのは間違いない、でいいですね。それでも植えないという人に強制はできない。

マンパワー不足は、農業界だけではなく、どこの業界も人手不足であり、永遠の課題ですぐに答えは出ない。今、やれる人でやっていくしかない。継続審議とする。

児玉部会長

続いて検討課題2（有害鳥獣関連）に入ります。

最近、アライグマをよく見るようになった。

森本副部長

タヌキと見分けがつかない。

鈴木部会員：

ハーベスターでタヌキを轢いた話を聞いたことがあるが、もしかしたらアライグマだったかもしれない。

児玉部長

アライグマとタヌキの区別がつかない。事務局から今年 80 頭以上捕獲していると説明があったが、実際にはもっといる。

鈴木部会員

アライグマの捕獲地域は、河北が多いのか。

藤村係長

河北が多く、伏古地区でアライグマの話はほとんど聞かない。出沒（目撃）情報があっても、実際はタヌキとの見間違いが多い。

児玉部長

シカの被害はどうなのか。河北地区はびっくりするくらいいる。朝早くに 15 頭くらいの群れを見かける。昔はそんなことはなかった。

中嶋部会員

シカは大きく目につきやすい。アライグマは、なかなか見つけられない。

鈴木部会員

畜産農家はアライグマのエサ場となっている。某畜産農家ではバンカーサイロの被害があり、監視カメラにはアライグマが何匹も映っていた。夜行性なので人気が無い時に出てきて食べている。

「デントコーンを綺麗に食べられていたら、アライグマはいるぞ」と業者に聞いている。

藤村係長

アライグマは手先が器用で美味しいところ（実）だけを食べる。メロンは穴をあけて綺麗に中身だけ食べる。

児玉部長

アライグマの生息域に、キツネは侵入しないのか。

藤村係長

アライグマの箱わなにキツネも入るので、共存していると思う。アライグマは雑食であり、甘味を感じる物は何でも食べる。

鈴木部会員

デントコーンばかりではなく、牛の配合飼料でも味を覚えれば食べる。

藤村係長

アライグマが厄介なのは農作物の被害だけではなく、病原菌を媒介する動物であること。アメリカだと噛まれた子供が狂犬病に感染して亡くなるとか、帯広の方でも引っ掻き傷から重症になった例を聞いている。

児玉部会長

シカも多い。朝4～5時に出かけると、シカの群れに軽トラでぶつかりそうになったことがある。高台に上がるとあちこちに、エゾシカの群れが何十頭といるのが見える。

鈴木部会員

テレビのテロップで、「動物侵入のため高速道路通行止め」など、昔よりよく見るようになった。

藤村係長

今年、十勝平原 SA に1頭迷い込み、町で対応した事例があった。

児玉部会長

アライグマ対策だけでなく、シカなども対策鳥獣の対象にした方がいいのではないか。アライグマも増えたが、シカも増えると思う。

児玉部会長

事務局から猟友会員が46名との説明があったが、実際、活動しているのか。

藤村係長

町の駆除員の7人以外で、直接農家から駆除依頼を受ける方、自主的に駆除に従事している方が10人程度で、それ以外は冬期間に狩猟を楽しんでいる人がほとんどである。

児玉部会長

特殊性が強いので、好きじゃないと免許費用を助成しても、なかなか免許を取ってくれないでしょう。

林原部会員

駆除した鳥獣は、どのように処理しているのか。以前、猟友会に依頼して仕留めてもらった時に、埋めておいてと言われたことがある。

藤村係長

平成27年度、嵐山の西側に残滓を処理する施設を建設し、その施設で処理している。特殊な菌を使っていて、シカなら1週間程度で骨もすべて分解する。

林原部会員

若い人に免許を取らせようかと思うが、処理がどうしたらいいのかわからなかった。

藤村係長

処理施設に投入すると跡形もなくなってしまう。管理を間違えると非常に危険なので、猟友会員しか鍵は開けられない。猟友会に入っていれば施設は使用できる。また、町に駆除依頼があれば、駆除員が回収する方法もある。

なお、アライグマ限定だが、防除従事者の箱わなに入った時は、駆除員が施設に持っていくことにしている。

鈴木部会員

農協青年部の支部活動で興味のある若手農業者はいる。農業被害を未然に防ぐために、わなの免許を取得しようとか、電牧の張り方を勉強しようとか話し合っている。

基礎資料の農業被害額を見ると、こんなに被害額あるのかと、自分達で防いでいかないと、と感じる。実害の無い支部はあまり関心が無いようであるが、被害のある地域は危機感を持っている。

児玉部会長

芽室町だけが頑張っても、隣接する自治体や北海道・十勝全体で頑張らないといけない。

他の自治体との連携はどうなのか。

藤村係長

芽室・清水・新得の3町による西部十勝の対策協議会があり、情報共有者や協議会での費用の工面がある。

芽室町の立場から見ると、清水町、新得町がアライグマ駆除に力を入れているので、この程度の被害で食い止められていると思う。

また、町界を越えると駆除に行けないので、越境しても捕獲できるという工夫はしている。

児玉部会長

現状、アライグマの駆除は、箱わなによる方法しかないのか。

藤村係長

夜間に活動する動物なので、駆除員の勤務中（日中）に、銃での捕獲は難しい。箱わなでの捕獲が効果的である。

児玉部会長

箱わなは、何か所でも上限無く設置できるのか。

藤村係長

捕獲頭数で許可を出すので、設置数の制限はない。

児玉部会長

アライグマはどのような経路で芽室に侵入してくるのか。西部から畑は繋がっていない。

藤村係長

クマと同じで、川沿いに移動しているものと思われる。水が好きな動物である。

鈴木部会員

高速道路を移動経路としていることも考えられる。高速道路より上の方でどんどん広がっている。

児玉部会長

アライグマに関しては効果的な方法を継続的にすることと、クマ・シカの目撃・被害も増加しているから、対策鳥獣に追加してもらう方向でお願いしたい。

続いて検討項目3について意見をいただきたい。

エコファーマーとGAP、両方が計画に記載されるのはいかがなものか。

藤村係長

以前、エコファーマーの認定は、環境保全型農業を取組むための必須要件だったが、現在はGAPの取組みに切り替えられてきている。

児玉部会長

エコファーマーは、平成の産物な気がする。

児玉部会長

「ジャガイモシストセンチュウ対策など」と記載があるが、ジャガイモだけ強調しすぎている。大豆や小豆もセンチュウ被害はあるのに、防除要綱に載せていない。対策が甘いので載せた方がいい。

中札内村の豆類の圃場は、センチュウの被害を受けているが、そのことすら知らない人が多い。近接する自治体と連携を取って対策を行ったほうがよい。対策品種の幅を広げて、豆も含め対策を行う

べきではないか。このような現状に、農薬メーカーは驚いている。ジャガイモに限らず、センチュウ対策全般に対して、JA振興センターもどのように対応していくか悩んでいる最中である。

北海道への陳情など、他の自治体は町・商工会・農協と一緒に要望に行く。本町は単体でしか動かないので、三位一体となり町をあげてPRすべきである。

児玉部会長

地域内循環（堆肥センター）はどうか。

鈴木部会員

地域内循環なので、恩恵は上美生（多くの原料を提供）が受けなければおかしい。生堆肥を冬場も撒いている農家を見ている。堆肥舎から敷地外に溢れて出てしまうため、畑に撒かなければならない状況である。

水分の多い堆肥が糞尿処理施設で処理され、水分の少ない堆肥が堆肥センターで商品として製造されるのが理想的である。

また、畑作農家と酪農家で堆肥と麦稈交換する時、しっかり水分を切った堆肥を提供するなど、個々の酪農家のモラルを問われる場面もある。雑菌が濃縮する形は避けないといけないと若手で言っている意識の高い人はいる。

芽室はまだまだ散布できる面積があるので、積極的に増頭するとなった時は、どこの圃場に堆肥を散布できるのか、という計画を出してもらった方が間違いないと思う。

増頭しても堆肥を散布する圃場を確保することに困る。町もアンケート調査などで散布圃場の提供農家を部外秘でリスト化することができれば、上記の対策がしやすいのかなと思う。個々が自分勝手に堆肥を撒く時代ではない。畑作農家とのマッチングなど酪農家が努力しているのを支えてほしい。堆肥におがくずを多めに入れて、水分が出ないように頑張っている人もいる。支えがあれば、生乳の生産意欲にも繋がるし、戸数が減っても増産になるのかなという風には思う。

児玉部会長

環境保全に関しては国が基準をつくり、堆肥の野置き禁止、ブルーシートを掛ける、浸透はいいが河川に流すのは禁止など。あふれた堆肥の水分が明渠や河川に流れ出ている人もいる。

堆肥センターで製造する堆肥は、希望者が多くて供給が足りていない。堆肥センターが1か所しかないから、購入することも散布する（依頼する）こともできない。2か所目、3か所目を考えないといけないものなのか、色々な局面をシミュレーションしてみるなど、やれるべきことはたくさんある。（2か所目、3か所目の建設が）「できる」、「できない」は別として考えていくべきであり、省力化が進み建設経費は掛かる（高くなる）だろうが、ランニングコストの削減が期待できるので、全体的な経費は抑えられると思う。まずは必要性を議論することから始めることが重要ではないのか。

鈴木部会員

バイオガスは排熱が出るので、冬場でも堆肥の発行速度が上がるが、現実的にはお金が掛かる。二
ーズ考えて建てるべきではないかと回答いただいたことがある。

最近マニュアルスプレッダを共同で持つ畑作が増えたのかなと感じている。物（堆肥）さえくれ
ばいいという人（自分で散布する人）が増えてきているかと。そうすると、供給する堆肥をもっと増
やせる。

児玉部会長

地域循環型は、センチュウもエコファーマーも全部関連するので一番大事かもしれない。メガファ
ームも増えたが、実践できない人もいるし、早めに対策をした方がよい。

鈴木部会員

売電に関しては、FITの枠がもらえないので踏み出せない人がいるが、個人でやりたい人はいる。
小さいロットでも発電所扱いになってしまう。最低のロットを引き上げてもらえれば取組める可能性
がある。

児玉部会長

近い将来、GAPを農業者全員が取得しないといけなくなるのだろうか。全部はできない農家もい
ると思う。

藤村係長

国の方向性としては、部会長のおっしゃるとおりだと思う。

鈴木部会員

オリンピックに向けた、短期間での推進活動なので浸透率が低い。取得したから何なのかと違和感
ある。周りにGAP指導員は増えているので、アドバイスはもらえる。ただし、商系になるのでお
おっぴらには難しい。

児玉部会長

議論はできたかと思うので、報告に移る。

■ 4 報告

(1) アンケート調査について

藤村係長

アンケート調査について、町民を対象にやるべきか内部で議論したが、本会議体は各分野から代表
者が出てきていただいているので、実施しない予定。

5 連絡事項

(1) 次回部会開催予定について

令和2年2月(予定)

児玉部会長

次回部会は2月を予定している。日程は私と事務局で連絡を取り合って、1月下旬までに開催日を決めたいので、追って連絡する。それで進めていいか。

部会員

了承。

■6 閉会

以上、15:00 終了。